

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果の概要

【調査の目的】

○義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

○さらに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査の概要】

○実施校数・実施児童生徒数
小学校(6校)・6年生:239人
中学校(2校)・3年生:213人

○学力に関する調査

○学習や生活の状況・学校の取組に関する調査

国語・算数／数学 児童／生徒アンケート

【調査結果の取扱い】

○本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎない。そのため、序列化や過度な競争を目的とした取扱いにつながらないよう各教科別に各領域の正答率をレーダーチャートで記載している。

○調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要と考える。

学力調査の検証にかかる東員町の教育努力目標

【確かな学力】

○小学校:

- ・学んだこと(基礎基本)を生かしながら、仲間と共に新たな課題を乗り越える力を育む。
- ・対話力や活用力を生かしながら、課題を克服できる力を育む。

○中学校:

- ・目標に向かって、計画的・継続的に学習できる力を育む。

【豊かな心】

○小学校:

- ・仲間と共に学び合うことに喜び感じられる心を育む。
- ・困っている子に気づき、相手の立場に立ち、考えられる心を育む。

○中学校:

- ・自分の将来や生き方について考えられる力を育む。
- ・社会の発展に貢献しようとする心や力を育む。

【健やかな体】

○小学校:

- ・規則正しい生活習慣と、進んで運動したり、外遊びをしたりする習慣を身につける。

○中学校:

- ・規則正しい生活習慣を確立し、体力をつけようとする力を育む。

☆レーダーチャート図の見方:

各教科で学習指導要領に示されている領域の正答率をグラフ化したもの。それぞれの領域の正答率が高いほど、グラフの形はバランス良く大きくなる傾向にある。

○小学校

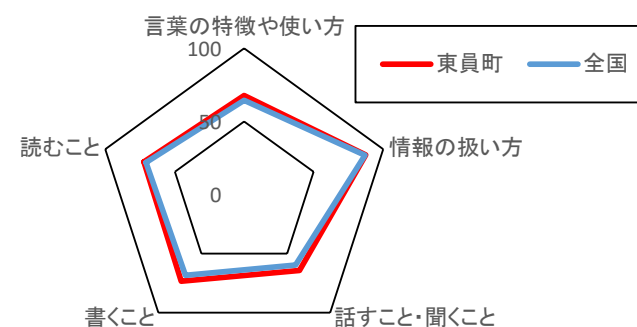
【全体的な傾向と課題について】

学習指導要領の内容のすべての項目について、全国値を上回る正答率である。すべての問題について、無回答率が全国値を下回っている。学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。

★指導のポイント★

当該学年の前の学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うようにする。第5学年及び第6学年は、漢字による熟語などの語句の使用が一層増加する時期であるため、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くように指導する。

国語



○中学校

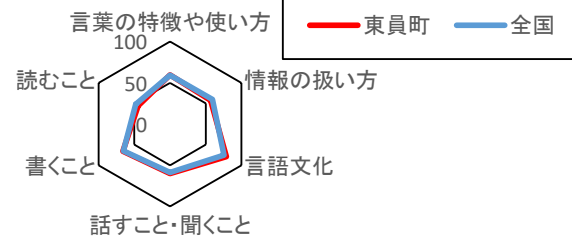
【全体的な傾向と課題について】

学習指導要領の内容の「我が国の言語文化に関する事項」以外の項目が、全国値を下回る正答率である。特に「具象と抽象などの情報と情報との関係についての理解」や「文章の全体と部分の関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えること」に課題がある。

★指導のポイント★

報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする学習活動の中で、具体と抽象の関係について指導する。また、筆者の主張と例示を捉え、文章の構成や展開について他者に説明する学習活動の中で、どのような具体例が示されているか、それはどの主張を支えるために示されているかなどを確認した上で、文章の構成や展開と結び付けて説明することができるよう指導する。

国語



東員町教育委員会

○小学校

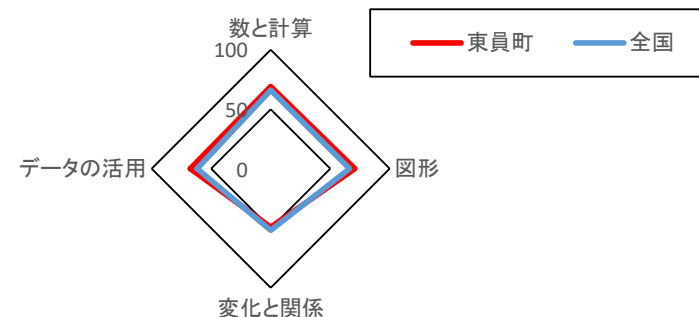
【全体的な傾向と課題について】

学習指導要領の内容の中で、「変化と関係」の項目以外、全国値を上回る正答率である。すべての問題について、無回答率が全国値を下回っている。伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察することに課題がある。

★指導のポイント★

異種の二つの量の割合として捉えられる数量を比較する際に、場面に応じて処理の仕方を考えることができるよう指導する。例えば、道のりを比べるときには、その長さだけで比べることができるが、速さを比べるときには、一つの量だけでは比べることができず、時間と道のりという二つの量が必要になることに気付くことができるようにすることが大切である。

算数



○中学校

【全体的な傾向と課題について】

学習指導要領の内容の全項目が、全国値を下回る正答率である。特に文字を用いて式を表すことや目的に応じた式変形など、中学数学の基礎となる部分の正答率が全国より低い点が課題である。

★指導のポイント★

数量及び数量の関係を捉え説明する場面において、事象における数量や数量の関係を文字を用いた式で表すことができるように指導し、文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明したり、得られた結果やその過程から新たな関係を見いだしたりすることができるように指導する。また、ある文字について解くことの意味を理解し、等式の性質などの根拠に基づいて等式を変形できるように指導し、二つ以上の文字を用いて数量の関係について考察する場面を設定して、等式の性質などを用いて目的に応じて等式を変形できるように指導する。

数学

